

津波避難ルールに関する 地域モデルの形成とそのあり方

照本 清峰¹

¹ 徳島大学環境防災研究センター

E-mail: terumoto@tokushima-u.ac.jp

津波避難の方法として、地域の置かれている環境によっては、車両での避難を選択肢に加えたほうが効率的な場合もある。一方で多くの住民が車両避難を選択した場合には、渋滞が起こる可能性もある。安全な避難場所まで全員が混乱なく迅速に移動できるようにするためには、地域の特性に応じて、避難に関する何らかのルールを作成しておくことが求められる。上記の問題意識に鑑み、和歌山県みなべ町沿岸部において、避難方法、避難路と避難場所に関する総合的なルールを策定するとともに、それらを形成する仕組みを示すことを目的として取り組んでいる。津波避難訓練では、徒歩での避難とともに、車両、バイク、自転車を用いた避難を試行的に行っている。また、地域の避難ルールの形成に関する状況把握のための調査を実施した。発表では、これらの調査結果について示すとともに、ルール形成に向けた取り組みのあり方について議論する。

キーワード：津波、避難ルール、車両避難、災害時要援護者、実践的避難訓練、和歌山県みなべ町